国土交通省
Ministry of Land,Infrastructure,Transport and Tourism

東北地方整備局新聞

第9号
2026年(令和8年)
3月31日

発行所　国土交通省東北地方整備局　〒980-8602　宮城県仙台市青葉区本町3-3-1　仙台合同庁舎B棟　電話022-225-2171(代表)　https://www.thr.mlit.go.jp/

私たちの仕事とインフラの利活用

豊かな東北を生み出す地域づくり

東北地方整備局の河川の仕事は、一級河川において、水害から地域を守るための堤防整備や川の改良、ダムや河川の管理および、施設の点検・修繕などを行うことです。

また、川の環境を守る取り組みのほか、地域の新しい魅力や活動を生み出す取組も実施しています。今回は、河川のインフラを活用した取組を紹介します。

鳴子ダムのすだれ放流 レインボーライトアップ

宮城県大崎市に位置する鳴子ダムは、洪水調節や発電のため、日本の技術者だけで建設した初のアーチ式コンクリートダムとして、2016年に土木遺産の認定を受けました。

すだれ放流はもともとダムの満水時放流点検のための放流ですが、造形自体が注目されていた事も重なり、美しいアーチから一斉に春の雪解け水を放流する様子が「春の風物詩」として親しまれています。

また、2022年に始まったライトアップにより、すだれ放流が虹色に輝く様子は近年話題となっています。

今年のライトアップは4月26日(日)から4月28日(火)の予定です。

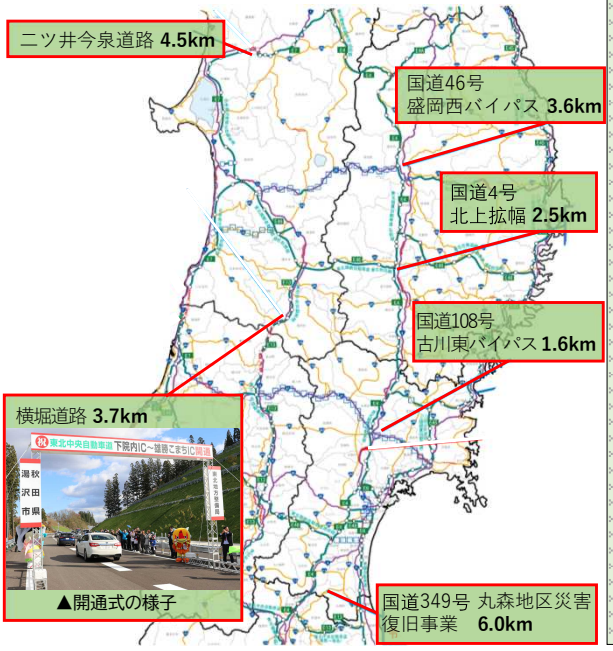


鳴子ダムのすだれ放流ライトアップの様子

〈令和7年度開通〉東北管内道路ネットワーク

東北地方整備局は、東北6県の道路ネットワークを管轄し、国道や高規格道路などの整備・管理を担っており、具体的には、物流・観光・地域生活を支える幹線道路の整備を行い、バイパス建設、拡幅、老朽化対策、雪寒地型の道路管理など、多様な事業を進めています。

令和7年度は下の図に示すとおり、秋田県の横堀道路など6カ所、21.9kmが新たに開通しました。



▲開通式の様子

東日本大震災から15年の歩み

復旧・復興 そして未来へ

2011年3月11日午後2時46分。東日本を襲った巨大地震は、激しい揺れと全てを飲み込む巨大な津波により、関連死を含む死者・行方不明者は合わせて2万2千人を超える甚大な被害となり私たちの日常を一変させました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

発災直後、国土交通省東北地方整備局はすぐに行動を開始し、被害状況の把握や救援活動を進めました。特に重要だったのが、救援物資を届けるための「命のルート」を確保することです。国道4号などの縦軸の道路と内陸から沿岸へ向かう横軸の道路を優先的に復旧するとともに、各地の港湾や仙台空港も早期に使えるようにしました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

その後、本格的な復興として三陸沿岸道路や復興支援道路が整備され、災害時にも使える安全な道路ネットワークができました。

また、河川では堤防を強化し、津波に強い構造への改良を行ったほか、港湾では耐震性を強化した岸壁や津波から地域を守る防波堤整備を進めてきました。

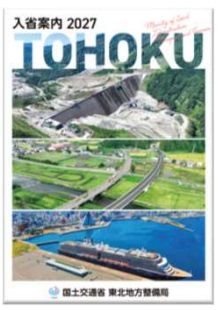
さらに、被災地での復旧にあたり、防災とまちづくりを一体で進め、祈念公園や伝承施設が整えられ、震災の教訓を次世代に伝える取り組みが続いています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊

震災後15年にわたる東北地方整備局の取り組みについて、10分程度の動画にまとめています。

東日本大震災から15年の歩み

令和8年度 入省案内完成



東北地方整備局の新しい入省案内(パンフレット)が完成しました。

私たちの社会的役割や、部署や課ごとの業務内容、若手の先輩方の声などを紹介しています。また、入省後の研修制度や福利厚生などのサポート内容なども知ることができます。

入省内容の一部抜粋→

入省案内は
こちらから



コラム ひと区切り 徹頭徹尾

仕事では“区切り”というものが必ずあり、それは新たな事業が立ち上がった時であったり、今回の記事で紹介したような道路の開通時であったりします。

年度末も区切りの一つで、明日から新年度が始まり、東北地方整備局の職員も職場や仕事の内容、生活環境が変わる人など、変化が生じます。寂しい反面、新たな出会いの機会ですし、仕事の変化は自身の成長につながるタイミングです。

皆様にとって新年度が輝かしい未来になることをお祈りします。